

## 5. おわりに

今年度の外部評価は、昨年度策定された「第2次伊賀市総合計画 第3次基本計画」（以下、「第3次計画」）に掲げられている全施策を対象として実施した初年度の評価である。

まず、まちづくりアンケート調査の結果については、コロナ禍でアンケート手法にDXの考え方を取り入れたことで、課題であった若年世代からも広く回答を得られるようになってきている。

また、今回のアンケート調査は、新しい計画のもとで実施されたため、前年の調査とは項目が変更になっているものもあり、単純比較はできないが、満足度は全体的に若干の上昇傾向であったのに対し、参画度は大きく低下している状況が見られた。

次に、当審議会の各委員から出された意見をもとに、今回実施した外部評価全体に対して指摘のあった事項を以下のとおりとりまとめたので、今後、各施策の担当部局による自己評価を行う際に留意されたい。

- ・ 外部評価の拠り所となる施策シートについて、【CHECK②効果検証】は、計画策定時に設定した【CHECK①成果指標】や、まちづくりアンケート結果を踏まえたものとすべきである。
- ・ 施策シートの【CHECK②効果検証】と【ACTION 事務事業の改善案】の記載内容が質・量ともに大きなバラつきがある。「事業の進捗状況をどのように把握しているか」「今後の事業実施に向けてどのような課題を抽出したか」「それをもとにどのような改善案をあてているか」を記載内容から十分読み取れるようにする必要がある。
- ・ まちづくりアンケート調査結果における「3. 産業・交流分野」の世代別満足度を見ると、年齢の高い層ほど、満足度が低いように見受けられる。「施策6-6定住関係人口」の地域人材育成等の取り組みを進めていくうえでも、こうした世代間における満足度の違いを詳細に分析する必要があるのではないかと。
- ・ 施策シートの【事業の進捗】において、「計画通り進めている」と評価された取り組みについては、まちづくりアンケートの調査結果や、成果指標の達成状況などを分析したうえで、「市民のためになっているのか」「市民の声を取り入れているか」「住みたいまちに向かっているのか」といった視点での評価となっていることが大切と思う。また、計画より遅れている分野の取り組みについては、積極的に改善を図られたい。
- ・ 農村部に住む人や、高齢者、子どもが生活しやすいよう、「都市政策」や「デジタル化」の取り組みは慎重に進められたい。市街地と農村部の一体感を醸成し、伊賀の良さを生かした伊賀ならではのまちづくりを計画的に進められたい。

- ・【CHECK①成果指標】は、目標が数値で設定されているため、進展度を確認しやすいが、一部、【CHECK②効果検証】の内容と結びつけるのが難しく客観的な外部評価がしづらい施策もあった。
- ・アンケートの設問はあるべき姿だと思う。成果指標の進展度や、事業の進捗度は高いのに、市民の参画度や満足度が低位にあるなど、取り組み状況と市民意識との間に乖離があるものもある。参画度や満足度は、それぞれの施策と市民との距離間や、市民の関心度合いにもよるところもあるが、課題を共有し、取り組みに活かすことが必要と考える。「伊賀流自治の視点」にある市民や団体が主体的に参画できるよう、内部評価についてもそのような意識で実施すれば、「オール伊賀市」の実現が近づくとと思う。

最後に、「第3次計画」の初年度の評価として実施した当審議会の外部評価について触れておく。

今年度の外部評価においては、基本事業ごとの成果指標(KPI)をはじめとする客観的な数値をベースに、目標が達成できているもの、達成できていないものについて適切な分析（内部評価）がなされているかを中心に、全施策を対象に評価を行った。

審議の過程で「外部評価施策シート」の改善案とともに、指標の見直しの必要性などについての意見もあった。シートの見直し等、外部評価の手法については、必要な改善を行っていくこととしたい。また、「第3次計画」の記載内容そのものに対する意見については、あらためて内容を精査し、適宜対応策を検討されたい。

伊賀市総合計画審議会  
会長 岩崎 恭彦